

平成28年度 子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業

「ファミリーキャンプ3月①」

- 趣 旨 クラフト活動や自然体験活動を通して家族の絆を深め、 家族相互の交流を図る。
- 期 日 平成29年3月4日（土）～5日（日） 1泊2日
- 対 象 者 クラフト活動や自然体験活動に興味のある家族
- 募集定員 12家族（60名程度）
- 参加者 5家族21名（応募者：7家族、28名）
- 講 師 国立大隅青少年自然の家 職員



7 日程・主な活動

時間	活 動 内 容	時間	活 動 内 容
14:00	受付開始（自然の家本館）	6:00	起床・準備・清掃
14:30	出合いのつどい・オリエンテーション （第2学習室）	7:15	荷物移動
15:00	活動1（第2・3学習室） 「鳥を呼ぶ魔法の道具を作ろう」 ～バードコール作り体験～	7:30	朝食（レストラン）
17:30	入浴（自然の家本館）	8:30	活動3（つどいの広場） 「親子で野鳥観察会」
18:30	夕食（レストラン）	10:30	片付け・アンケート記入・別れのつどい
19:30	活動2（第2学習室） 「野鳥の観察の仕方」 ～翌日の活動説明～	11:00	解散
20:30	就寝準備・自由時間		
22:00	就寝		

8 事業運営

本事業では、参加者が楽しく一緒に活動することを通して、家族一人一人の大切さに気付くことができるよう配慮した。

- (1) バードコール作りでは、難易度の高い作業を組み込み、家族間で協力して活動を行う機会を増やした。
- (2) 野鳥観察時は、発見した野鳥を配付した資料や図鑑を活用しながら、それぞれの家族で調べることを基本として活動を行った。

9 事業の実際

- (1) 出合いのつどいでの参加者自己紹介では、今回の事業の参加理由や事業に対する期待の言葉を述べていた。家族ごとに個性のある自己紹介であった。
- (2) バードコール作りでは、角材にアイボルトを差し込む作業や、アイボルトに麻紐を巻き付ける作業などで、家族ごとに協力して進めていた。アクリル絵の具の様々な色を使って、鮮やかな作品を作り上げていた。実際に音を出すと、楽しそうに繰り返し音を鳴らす子供たちの姿が印象的であった。
- (3) 1日目の夜には、自然の家職員が翌日の野鳥観察会の説明を行った。参加者は、野鳥についての簡単な特徴や双眼鏡の使用法、野鳥観察時のマナー等について理解することができた。

野鳥については、今回の野鳥観察では観察できる可能性の低い夏鳥や所の周辺で見られる可能性の高い野鳥などについて、写真を見ながら説明を行った。双眼鏡の使用法やマナーについては、実際に操作しながら使用方法を覚えていった。家族ごとに教え合いながら操作する姿が見られた。
- (4) 2日目は、あいにくの小雨ではあったが、野鳥観察を実施した。雨の影響もあり、多くの野鳥を見ることはできなかったが、実際に野鳥を双眼鏡で観察した子供たちからは、歓声があがっていた。一生懸命に双眼鏡を覗きながら、野鳥を探す姿が印象的であった。

10 参加者の感想

- 普段生活していて、野鳥をじっくり観察する機会がないので、すごく新鮮で楽しかったです。運動にもなり良かったです。
- 2日目は雨だったが、広葉樹の森の中を歩くだけでも楽しかったです。
- 細部まで気配りをされていて、有意義な時間を過ごせました。

11 成果

- 家族で協力する機会を設ける工夫を行ったことによって、家族間の交流が図れ、絆を深めることができた。
- 普段の生活の中で、実は身近な存在である野鳥を観察することによって、自然の豊かさや尊さを実感する機会となった。活動後には、大人から子供まで、また野鳥観察がしたいという感想であった。野鳥観察に興味を持ってもらえたことで、参加者自身が自然に向き合うきっかけとなった。

